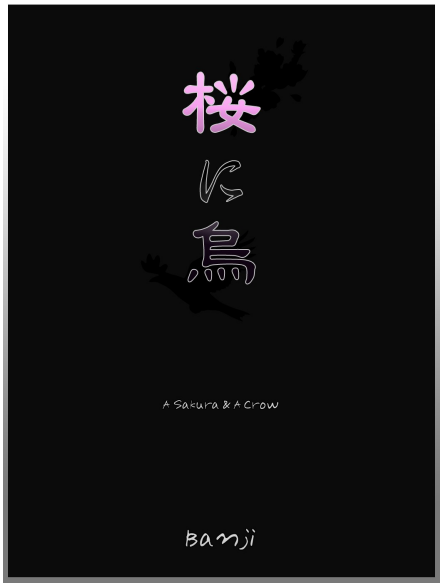
立ち読み版

「桜に烏」のサンプルです。

「桜に烏」の二ページ分を試し読み頂けます。
本編では過激な内容が含まれるためサンプルではご覧頂けません。

本編は.shop by Ground Top、もしくは委託販売先にて販売しております。



「桜に烏」

定価 九〇〇円＋税

二十禁小説（R20）

.shop by Ground Top
http://groundtop.sakura.ne.jp/shop/
委託販売先で販売中。

桜に烏 -A Sakura & A Crow-

〽 人世見(ひとよみ)し 桜雨(さくらめふ)降りて 幽(かすか)かなる 想(をも)ひさければ 烏(からす)も妖(あや)し

周りを見渡してみれば、桜の花びらが雨のように降っていて視界が霞んでしまう
それに思いを馳せていると 烏ですら神々しく見えてしまうものだ

温かい背中を抱くたびに思うことがある。嬉しそうに自分を見上げてくるその顔を見るたび、手にかけたくなるほどの愛しさをどうすれば抑えられるのだろうと。時には恐ろしくも感じ、時には枯心を覚える。言うならば、崩れ落ちそうな泥傀儡を抱いているようだ。

「どうしたんですか、頭首？」

「いや。」

気づけば不安そうな表情で見上げてくる顔。それを拭い払うように唇を合わせた。

———いつまで、共に居られるだろう。「もし頭首が隠退する時は、俺が世話します。」そう言ってくれた時は正直嬉しかった。自分は彼に、辛い道を歩ませたことを後悔している。それでも、彼は赦してくれるのだろう。

他の者に犯されるくらいならば、いっそ我が手で散してしまおうと。

「きれいだ。」

重智がふと口にした言葉に、天東は一瞬戸惑った。

「ん、何？」

「ほら、桜ですよ。俺、桜好きなんです。」

重智が見る先には、桜木の天辺が見渡せる。二階故に花びらもかすかに部屋へ入り込んでくる。屋敷には何本か桜が植えてあるが、ちょうど満開ともなる時期だろうか。

「昨年にもそんなことを言っておったな。何故、桜が好きなのだ？」

「血で汚したくないものだから。」

「血？」

「血生臭い忍にも・・・一つくらい、汚したくないものがあってもいいのかなって。親を殺した時から血に慣れてく自分がすごく恐くて、任務だって割り切ってたつもりなのに。」

態と、手で顔を覆う重智から目を反らした。

あの一件以来、重智は強くなったと思う。前よりも帰ってくるまでの時間が短くなったし、少し身体に付く血の量も増えた気がする。だが、残忍な感情が重智に巣食ってしまわないか、最も不安だった。人を殺すことに慣れてはいけないと。

「心配するな。甲風の忍とて、そんな弱い者は要らぬ。己を律せねば奴を倒さず、霊爻に教わらなかったか？」

「教わりました。」

「ここはそんなに有り様に厳しくは無いからな、お前の思う通りの忍を貫けば良い。」

ゆったりとした重智の髪を撫でながら、天東は笑った。

「なぁ、重、お前のその髪っていっつもそんなん？」
風呂釜の縁に両腕をもたれていた嵐烏が口を割る。
「うーん、そうだね。」
身体を拭く重智がすぐに答えた。重智の髪は濡れていようと乾いていようと、いつも同じ後ろに向かって跳ねている。特に何をしている訳でもない。
「嵐は髪の毛無いのは何で？」
「邪魔だから。色々仕事すんのに、そん度に前髪やらが垂れてくんじゃ邪魔だろ。」
「そのくらいで切るかなぁ。」
「どうせ俺は大雑把だよ。」
風呂に顔を打ち入れた嵐烏が、水面にぷかぷかと坊主頭を浮かす。
一日中働く嵐烏はいつも最後に風呂に入る。それでは寂しいだろうと重智も一緒に入っているのだ。
かすかに水面が上昇し、重智の安堵が響く。
「やっぱり最後だと静かで良いよね。」
「あぁ。」
風呂場の戸が開くと、天東が覗き込んできた。
「私も入っていいか。」
「あれ、頭首まだだったんですか？」
「うむ、少し書き物が長引いてしまってな。」
少し困った顔をしながら、顔を引っ込めた。
「頭首が居るとなんか落ち着かねぇな。」
「しょうがないよ。」
「お前は良いけどさ、俺はあんま頭首と一緒にいねぇもんよ。」
口を苦しながら嵐烏が肩を竦めた。
風呂場に天東が入ってくると、湯浴びして風呂釜に潜り込む。嵐烏にとって、髪を解いた頭首を見るのは初めてだ。意外に長くて、別人のように見える。鬚があって辛うじて頭首だと判断出来る。
「冷えものだがすまんな。」
「頭首と入るのは久しぶりだ。」
少し照れくさそうな重智と、ぎこちない嵐烏。
「そうだな。・・・どうした嵐烏。風呂くらい無礼講で構わんぞ。」
「あ、あぁ、いえ。」
そう言って立ち上がると、風呂座に腰を下ろす嵐烏。どうも苦手そうな表情を浮かべながら、身体を拭き始める。
「いつも屋敷のことをやって貰って悪いな。もっと新参者にやらせても良いのだぞ。」

桜に烏 立ち読み版

著者　Banji
作者　Banji
イラスト　Banji
発行　2009年3月
管理コード　df-569132wbvp-s
著作権　Banji
定価　無償試供品

個人販売元
Banji[banji.jp@gmail.com]

Ground Top, .shop by Ground Top
http://groundtop.sakura.ne.jp

Printed in Tokyo, Japan.
文章及び画像の無断利用は禁止されています。